

定例記者会見（12月）次第

令和2年12月1日（火）

午前11時～

市長公室広報広聴係

<出席者>

酒田市／市長

総務部長、危機管理監、企画部長、市民部長、教育次長

危機管理課長、企画調整課長、まちづくり推進課長、社会教育文化課長

酒田記者クラブ／各社

幹事社／朝日新聞、YBC（11月・12月）

1 開 会

(1) 発表事項

- ①新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受けて（危機管理課・まちづくり推進課）
- ②第26回酒田市土門拳文化賞受賞者決定（社会教育文化課）

(2) 懇談・フリー質問 [幹事社]

(3) その他

2 閉 会

◆その他配布資料

- ①酒田市公式LINE（ライン）アカウントの開設について（市長公室）
- ②特別定額給付金について（総務課）

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受けて

新型コロナウイルス感染症は、全国的に拡大するとともに、本市においても11月19日以降14件感染確認され、感染経路が不明な感染例も多くなっています。重大な危機感をもって受け止めています。

本市としては、感染経路が追えていない感染者がいることを重視し、昨日より12月13日（日）までの間、市主催イベントの中止、感染すると重症化リスクの高い高齢者の利用の多い施設の閉鎖をすることとしました。

踏み込んだ対応となりますが、市全体で危機感を共有しながら、市民の命と医療体制を守っていければと考えています。

また、市内の介護施設や障がい者施設に対して、施設における入所者と家族の面会や、施設職員の会食等を見合わせるよう要請しております。

大変ご不便をおかけしますが、趣旨を理解いただきご協力をよろしくお願い申し上げます。

市民の皆様には、以下の2点につきご留意いただきますよう改めてお願い申し上げます。

1点目として、こまめな手洗いやマスクの着用、身体的距離の確保、3つの密を避けるなどの「新・生活様式」を、いま一度徹底してくださいようお願いいたします。特に、重症化リスクの高い高齢者や基礎疾患のある方については、会食を控える、不要不急の外出を控えるなど、より慎重な行動をお願いいたします。

2点目として、各事業者の皆様には、業種ごとの感染拡大予防ガイドラインの遵守を徹底していただきますよう、重ねてお願いを申し上げます。

また、感染者や濃厚接触者となった方、その関係者、医療従事者などに対する差別や偏見、嫌がらせなどが社会的な問題となっていることから、本市では「市民が守る3つの宣言」を定めました。このことによって、新型コロナウイルス感染症に関する人権侵害を防止していきます。

最後に、繰り返しのお願いとなりますが、市民の皆様の冷静な対応をお願いいたします。

令和2年12月1日

酒田記者クラブ加盟社 各位

ストップコロナ差別！

市民が守る3つの宣言を制定しました

このたび、新型コロナウイルス感染症に関する人権侵害を防止するため、「市民が守る3つの宣言」を定めました。
つきましては、取材等について、よろしくお願いたします。

【宣言文】

私たち酒田市民は、思いやりと公益の心で正しい理解を深め、差別のない社会を目指すために、次のことを守ります。

1 感染者とその家族を非難しません

感染は誰にでも起こる可能性があります。

私たちは、不当な差別、いじめ、誹謗中傷は絶対にしません。

2 不確実な情報は信じません

デマや不確実な情報が広まると、多くの人が傷つきます。

私たちは、根拠のないデマに惑わされたり、広めたりしません。

3 健康とくらしを支える方々を応援します

医療従事者をはじめ、市民の健康とくらしを支えるために奮闘している方々があります。私たちは、健康とくらしを支える方々に心から感謝し、応援します。

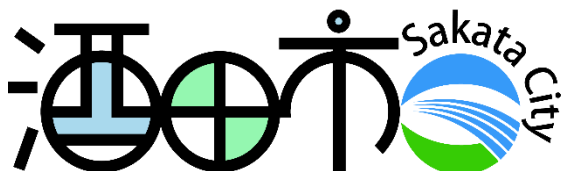
・この宣言は、市広報12月1日号に掲載しています。

●お問い合わせ／

市民部まちづくり推進課市民相談室
小松正人、丸藤真也

TEL 26-5726 FAX 26-4911

Eメール machi@city.sakata.lg.jp



令和2年12月1日

酒田記者クラブ加盟社 各位

第26回酒田市土門拳文化賞受賞者決定のお知らせ

「酒田市土門拳文化賞」は、本市出身の世界的な写真家・土門拳の芸術文化への功績を記念し、写真文化、写真芸術の振興を目的に平成6年6月に創設された賞です。26回目を迎えた今回は、全国37都道府県の138人から145テーマの作品が寄せられました。当初授賞式を9月上旬に予定していましたが、新型コロナウイルス感染防止のため、日程が大幅に変更となり、授賞式は令和3年3月に開催いたします。

去る10月16日（金）、本市において選考委員会を開催し、次のとおり受賞者が決定したので、お知らせいたします。

【酒田市土門拳文化賞】（1点）

「^{めぐ}恵みと^{しれん}試練」－丸森 2019－（カラー 30枚組）

^{えびな}海老名 ^{かずお}和雄 氏 男（77歳） 宮城県仙台市太白区

【酒田市土門拳文化賞奨励賞】（3点、受付順）

(1) 「^{ちんもく}沈黙の^{こゑ}声」 （カラー 30枚組）

^{ふしと}藤吉 ^{おとだ}修忠 氏（81歳） 和歌山県和歌山市

(2) 「^{れんめん}連綿の^{かほ}片（RENMEN NO KAKERA）」 （カラー 30枚組）

^{わだ}和田 ^{しゅへい}喜博 氏（73歳） 岐阜県各務原市

(3) 「^よ寄り^そ添って」 （モノクロ 30枚組）

^{あらい}荒井 ^{しゅめい}俊明 氏（68歳） 京都府福知山市

お問い合わせ

酒田市社会教育文化課 佐々木

TEL24-2982 FAX23-2257

Eメール art@city.sakata.lg.jp

1 選考委員

江成 常夫 氏 写真家 九州産業大学名誉教授
大西 みつぐ 氏 写真家 前大阪芸術大学客員教授
藤森 武 氏 写真家 (公財) 土門拳記念館学芸担当理事

2 選考結果

○酒田市土門拳文化賞（1点）

「^{めぐ}恵みと^{しれん}試練」一丸森 2019ー （カラー 30枚組）

^{えびな}海老名 ^{かずお}和雄 氏 男（77歳） 宮城県仙台市太白区

○酒田市土門拳文化賞奨励賞（3点、受付順）

(1) 「^{ちんもく}沈黙の^{こえ}声」 （カラー 30枚組）

^{ふじよし}藤吉 ^{のぶただ}修忠 氏（81歳） 和歌山県和歌山市

(2) 「^{れんめん}連綿の^{かけら}片 (RENMEN NO KAKERA)」 （カラー 30枚組）

^{わた}和田 ^{よしひろ}喜博 氏（73歳） 岐阜県各務原市

(3) 「^よ寄り^そ添って」 （モノクロ 30枚組）

^{あらい}荒井 ^{としあき}俊明 氏（68歳） 京都府福知山市

3 今後のスケジュール

(1) 授賞式 令和3年3月7日（日）午前10時～
会場／土門拳記念館

(2) 受賞作品展 令和3年3月6日（土）～4月18日（日）予定
会場／土門拳記念館

4 選考委員講評

<総 評>

江 成 常 夫

写真、絵画、文学、いずれの表現分野であれ、その原点は歴史にある。そのうちでも写真は記録性を普遍的価値としていることから、社会や時代に直結していることは言うまでもない。土門拳が確立した写真リアリズムは記録性を礎としており、従って土門拳文化賞の理念は歴史観に通底していると言える。

この理念のもと、今年第26回を迎えた文化賞は当初、賞のかたちが整うまで紆余曲折したが、回を重ねるごと明確になり、時代を踏まえたメッセージ性を持った作品が多く寄せられるようになった。今回の応募者数はほぼ近年並みの138人。そのうち特記できるのは、初回の女性の応募者数が5人だったのに対し、今回は29人と6倍

近くに増えている。男性と異なる固有の感性を持つ、女性の進出を喜びたい。

人間社会の無情に切り込むのが写真表現の本道である。新型コロナウイルスが世界を震撼させている時、写真の力をどう発揮させるか。目に見えないコロナ禍をどう視覚化するか、来年に期待したい。

<土門拳文化賞受賞作品について>

藤 森 武

「^{めぐ}恵みと^{しれん}試練」－丸森 2019－ ^{えびな}海老名 ^{かずお}和雄 氏

海老名さんは2019年4月から宮城県南部の丸森町にある養蚕農家2軒で繭作りを詳細に記録撮影してきた。その記録写真だけでも貴重な組写真となる。

撮影のさなかの10月に大型台風19号が丸森を襲い大災害が発生した。海老名さんは養蚕農家が心配で被害の現実を撮影した。取材中の1軒は養蚕室が壊滅的な打撃を受け、後に廃業に追い込まれたという。

結果、台風は思いがけないドラマ（物語）を演出してくれた。丸森には養蚕農家が5軒あるという。中山間地域の生活と限界集落に近い地域での問題点が浮き彫りとなったのである。

30枚の組写真の難しさを克服した見事な写真群である。

<土門拳文化賞奨励賞受賞作品について>

大 西 みつぐ

◆「^{ちんもく}沈黙の^{こゑ}声」 ^{ふじよし}藤吉 ^{のぶただ}修忠 氏

沈黙の声とは、戦後75年を過ぎた今でも沖縄の「ガマ」の中から私たちに「鬼哭」として発し続けられるものだ。7年にも及ぶ作者の取材は、93年に観光で訪れた「ひめゆりの塔」での痛切な記憶に始まる。戦跡は人間の生きた痕跡として現在も克明に立ち上がっていく。時として花鳥風月ばかりが「風景」として持て囃されていく昨今、光と影は写真の表層の描写からさらに深いところに届いていくひとつの「いのち」であることがこれらの写真群からよくわかる。

◆「^{れんめん}連綿の^{かへら}片 (RENMEN NO KAKERA)」 ^{わた}和田 ^{よしひろ}喜博 氏

疫病も自然災害も、どこかこれまでの私たち人間の振る舞いが影響しているのではないかと思わせるものがある。連綿と続く世界の日常は確かに美しくもあるが、常に脆弱なものであるかもしれない。作者の眼差しの多くは、近景のものに冷静に静謐に向けられている。束の間の生、そして死。何かを簡単に暗示させ象徴させるものではないが、それらの輪廻をとらえようとする意識こそが表現を呼び、写真を作品としてしっかり自立させた。

◆「^{よそ}寄り添って」 ^{あらい}荒井 ^{としあき}俊明 氏

作者がこれまでの「コンテスト入賞」目的の写真とは一線を画する作業を続けることになったのは、ひとえに被写体の存在そのものがあった。風土に寄り添い、ご夫婦が互いに

寄り添う。そんな自然で穏やかな関係を見つめ、写真家はどんどん心が浄化されていく。その過程はそのまま私たちの父母や祖先の記憶へとつながる。懐かしさを超えた情感のほとぼしりは、悲しいはずの葬儀までも率直な記録として場に臨ませた。誠実に、丹念に編まれた庶民史でもある。

5 応募状況

年度	回	応募者数 (男・女・不明)	テーマ数 (モノクロ・カラー・混合)	作品枚数	都道府県
R 2	26	138 (106・29・3)	145 (54・90・1)	3,861	37
R 元	25	137 (104・33)	143 (61・77・5)	3,885	35
H29	24	131 (100・31)	146 (80・60・6)	3,923	36
H28	23	131 (111・20)	143 (56・75・12)	3,879	36
H27	22	135 (110・25)	143 (52・83・8)	3,892	35
H26	21	117 (98・19)	130 (64・62・4)	3,446	33
H25	20	128 (105・23)	140 (50・78・12)	3,632	41
H24	19	147 (121・26)	155 (63・79・13)	3,981	36
H23	18	156 (141・15)	161 (53・102・6)	4,179	41
H22	17	144 (127・17)	151 (68・79・4)	3,867	37
H21	16	136 (107・29)	154 (53・93・8)	2,979	35
H20	15	127 (112・15)	134 (43・89・2)	2,902	36
H19	14	147 (121・26)	155 (56・94・5)	3,442	40
H18	13	101 (81・20)	116 (57・53・6)	2,861	30
H17	12	111 (87・24)	117 (66・48・3)	2,999	32
H16	11	124 (95・29)	124 (51・69・4)	2,848	36
H15	10	110 (92・18)	120 (56・61・3)	2,849	29
H14	9	103 (84・19)	109 (49・54・6)	2,808	30
H13	8	136 (114・22)	142 (68・68・6)	3,311	35
H12	7	115 (97・18)	124 (75・47・2)	3,006	38
H11	6	119 (96・23)	127 (67・58・2)	2,739	34
H10	5	139 (108・31)	150 (74・71・5)	3,134	36
H 9	4	138 (110・28)	151 (82・67・2)	3,144	37
H 8	3	151 (124・27)	170 (80・86・4)	2,835	34
H 7	2	104 (93・11)	114 (50・59・5)	1,938	34
H 6	1	108 (103・ 5)	130 (62・66・2)	2,453	37

第 26 回酒田市土門拳文化賞受賞作品

「^{めぐみ}恵みと^{しれん}試練」—丸森 2019— ^{えびな}海老名 ^{かずお}和雄（仙台市太白区）

代表作 1 点を掲示する場合はこの作品をご使用ください。



【解 説】

「^{めぐみ}恵みと^{しれん}試練」－丸森 2019－」

2019年4月から丸森町の養蚕農家2軒に頼み繭作りを記録してきた。幼虫で蚕を購入し桑を与え脱皮を繰り返して繭を作り蛹になる行程が1年に5回繰り返される。

最後の繭の出荷時期を迎えた10月12日に台風19号が丸森町を襲い、筆甫地区では600ミリ近くの雨が降り丸森町全体で死者10名行方不明者1名という痛ましい災害が発生した。

養蚕は幼虫から繭を作るまでの一連の記録を、台風被害は山頂付近から中流、下流へと引き起こされた土石流の災害を記録した。

養蚕と災害の記録を織り交ぜた意味は、本来豊かな恵みを齎（もたら）してきた中山間地域での生活が温暖化の影響を受けた異常気象によりいつでも大災害に転じてしまう、大災害に見舞われ災害格差が生じてしまうということへの警鐘を込めた積りである。限界集落に近い地域で生活している高齢者が受けるダメージは計り知れないものがあるだけに。

海老名 和雄

第26回酒田市土門拳文化賞受賞者 海老名 和雄

略 歴

○プロフィール

・1943年 仙台市出身 宮城県公立高等学校教員として36年間勤務したのち、東北工業大学に5年間勤務
高等学校文化部写真連盟委員長などを務める。ニッコールクラブ仙台支部顧問 宮城県芸術協会会員



海老名 和雄氏

○写真展及び受賞歴

- ・河北写真展特選・河北賞受賞4回
- ・ニッコールフォトコンテスト準推薦2回 特選 準特選 入選
- ・エプソンカラーイメージングコンテスト ヒューマンライフ部門
準グランプリ2回 審査委員特別賞 特選 入選 佳作
- ・全日本写真展 銀賞 銅賞 入選 県優秀賞
- ・第22回酒田市土門拳文化賞奨励賞 など

第 26 回酒田市土門拳文化賞奨励賞受賞作品 (3 点)

「沈黙の声」 藤吉 修忠 (和歌山県和歌山市)



「沈黙の声」

1993 年春、妻と二人で沖縄観光ツアーに参加し最初の場所が「ひめゆりの塔」でした。そこで初めて女子学徒隊の事を知り、語り部に耳を傾け遺影を目にし、胸ははち切れそうになりました。妻は大粒の涙を浮かべ花束を求めて献花台に供えていました。そして私に問いかけました。「彼女たちは本当に死ななければならなかったの？」と。

月日が流れた 2014 年、忘れる事の無かったあの「涙と問いかけ」に応えるべく、女子学徒隊の戦跡を訪ねる旅を始めて 7 年になります。

「敵の捕虜になっては駄目だ。女は皆おもちゃにされる。だから壕から出たら撃ち殺すとの軍からの命令は正しいと信じた。」「手榴弾は 13 人に 3 個しか無い。生徒たちは 13 人が抱き合ってその真ん中で信管を抜けば一緒に死ぬる、と言った。そして泥まみれの作業服を脱いで制服に着替え胸に白百合の校章をつけた。」

この様な証言を思いつつ、葉陰に覆われた静寂のガマに入ると憤りと悲しみで、滂沱の涙禁じ得ませんでした。そこから聞こえてくる声に耳を傾け、鎮魂と平和への希求を誓う事でしか彼女たちの死に報いる術は有りません。この事是非に残して置きたく。

藤吉 修忠

「連綿の片 (RENMEN NO KAKERA)」 和田 喜博 (岐阜県各務原市)



「連綿の片 (RENMEN NO KAKERA)」

一たび大きな災害や事故が起これば、生態系が破壊され、環境は大きく変容する。地球温暖化の影響か、ここ数年富に自然災害の起きる確率が増えており、我々は歴史に残る未曾有の事件事故の目撃者にもなってきた。しかし、災害がなくても生き物の世界は常に変容し続けている。季節の巡りの中で植物は芽を出し花を咲かせ実を付け、旺盛に繁茂し^{せめ}鬩ぎ合い、やがて葉を落とし枯れていく。動物はさらに複雑だが、生存をかけたの様々な連鎖の中で、生と死が繰り返され命が繋がっていく。そうした営みを見ていくと、実に精緻で巧妙で、見事にシステム化された自然の摂理の不思議さに心打たれる。ただそれがあまりに日常と化しているため、我々は無自覚無感動に見過ごしてしまっているのではないか。そんな思いで、連綿と変容し続けている世界の一端を、その微小な断片として、日常的な身の回りや小動物、そして私自身に関わる画像を含めて映像化してみた。

和田 喜博

「寄り添って」^{あらい} 荒井 ^{としあき} 俊明 （京都府福知山市）



「寄り添って」

この村との出会いは偶然でした。

あの時、村人が笑顔で迎えてくれなかったら通う事はなかったでしょう。

そして、山椒の丘で老夫婦に出会います。

閉ざされた生活が続いたから故の人恋しさなのか。

それとも、村を囲む大自然がもたらす大らかさなのか。

ここには、私の幼少期の様な柔らかい空気が流れていました。

気忙しい日々浸っていた私には、不覚にもその空気を理解するのに時間が掛かりました。

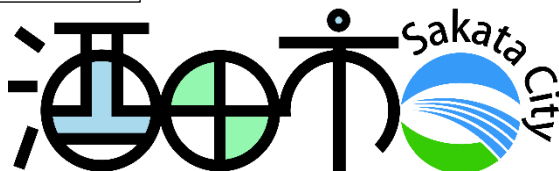
—（中段略）—

いつかは誰しにも訪れる別れの日。避けては通れない死に写真としてどう向き合うかは、ずっと悩んでいることでした。日常として捉えるのか、特別な事とするのか答えは出ませんが、静かに穏やかに流れる日常を記録しています。

荒井 俊明

※ 掲載用として上記受賞作品の一部と受賞者の顔写真（文化賞）をデータをご用意しております。
ご希望の場合は下記までご連絡ください。

酒田市社会教育文化課 文化芸術係（担当：佐々木）
TEL (0234) 24-2982 FAX (0234) 23-2257
e-mail : art@city.sakata.lg.jp



令和2年12月1日

酒田記者クラブ加盟社 各位

酒田市公式ライン（LINE）アカウントの 開設について

このたび、酒田市公式ライン（LINE）アカウントを開設しました。
つきましては、取材等に関し特段のご配慮を賜りますようお願いいたします。

◆ポイント

- ・無料で通話やメッセージの送受信ができるコミュニケーションアプリというラインの特性を活かした情報発信を行うもの
- ・子育てやイベントなどの身近な情報のほか、災害時の迅速な情報提供を行う
- ・災害時はラインの特徴であるプッシュ型通知で緊急情報を発信する予定
- ・本市としては4つめのSNSアカウント
- ・投稿は、12月4日（金）より開始予定

●アカウント情報

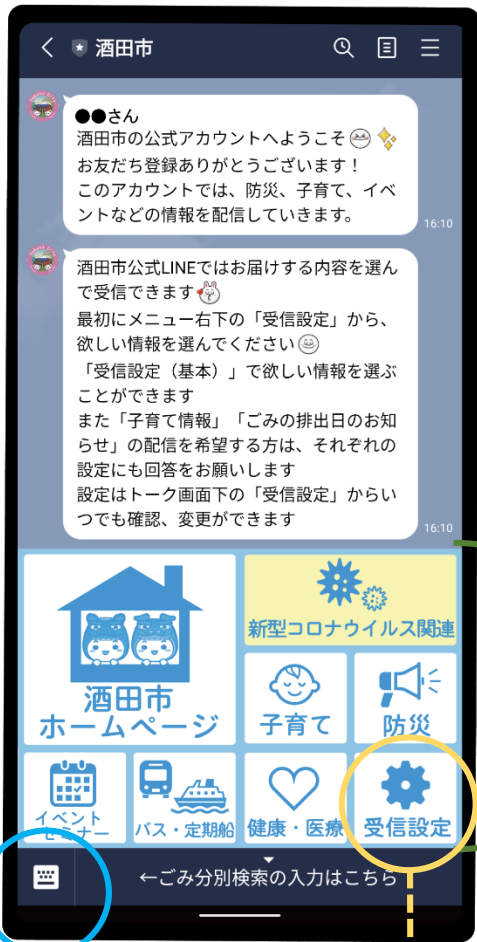
- ソーシャルメディアサービス名：LINE（ライン）
- アカウント名：酒田市
- 公式LINEアカウントID：@sakata_city

原則として開庁時間（午前8時30分～午後5時15分）に、市長公室広報広聴係職員が必要に応じて不定期に投稿します。なお、この時間以外にも必要に応じて投稿する場合があります。

◆概要については、別紙資料のとおり

●お問い合わせ／市長公室広報広聴係 小黑
TEL 26-5706、FAX 26-3688
Eメール koho@city.sakata.lg.jp

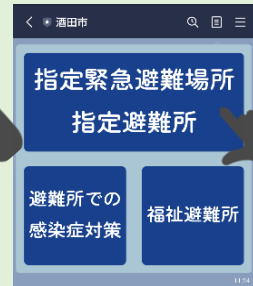
酒田市公式LINEアカウント概要



①わかりやすいメニュー機能（リッチメニュー）

画面下部に、新型コロナウイルス、防災、子育てなどの情報に直接アクセスできるメニューを用意しています。メニュー項目は、ユーザーからの意見を参考にしながら、特定の窓口開設や災害時などは状況により変更を行うなど、ニーズに応じた情報提供に努めます。

【リッチメニューからの動作例】



①リッチメニューの「防災」をタップすると、トーク画面に画像（リッチメッセージ）で新たに選択肢が表示され、視覚的に情報を選択できる。

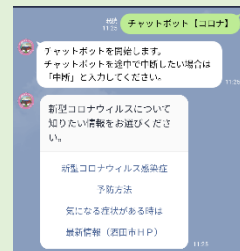
②「指定緊急避難場所・指定避難所」をタップ

③詳細が書かれているホームページへ。

◆このほか、複数の選択肢を横にスクロールして見ることができる「カルーセル」や、テキストで選択肢を提示しながら知りたい情報へ誘導する「チャットボット」などを使用し、効果的に情報提供に努めます。



カルーセル



チャットボット

②受け取りたい情報を選べる

受信設定にある「欲しい情報」に回答することにより、受け取りたい情報を選択できます。

- イベント・講座
- 健康
- 子育て
- 移住
- ごみ
- 広報紙ダイジェスト

ごみの排出日を前日にお知らせ

ごみ情報の受信設定で、排出日のお知らせが欲しいごみ種別と居住地域を登録すると、前日午後6時に通知が届きます。

③テキスト入力でごみの分別種類を確認できる

トーク画面で、品名を入力すると、分別種類などの情報が返信されます。



◆画面・配信のデザインや文章、選択項目などは変更になる場合があります。

令和2年12月1日

酒田記者クラブ加盟社 各位

特別定額給付金について

○特別定額給付金の申請受付は、10月14日（水）をもって終了しました。

○最終の給付実績は、下表のとおりです。

	給付済世帯数	給付済人数	給付済額
郵送申請	4万1,252世帯	9万8,197人	98億1,970万円
オンライン申請	992世帯	2,511人	2億5,110万円
計	4万2,244世帯	10万708人	100億7,080万円
給付率	99.7%	99.9%	99.9%

◆給付対象世帯数 4万2,374世帯、給付対象人数 10万849人

●お問い合わせ／総務課 齋藤司

TEL 26-5700、FAX 26-3688

Eメール somu@city.sakata.lg.jp